

埼玉県議会議長賞

川越市立山田中学校 三年 入迫 佑輝

祖母から学んだ税金の大切さ

私の祖母は十一年前に心臓の手術をしました。その際に、障がい者一級という認定を受けました。この認定を受けると、年間で五百円のタクシー利用券が二十五枚支給されるそうです。祖母は通院時には家族に送迎を頼んでおり、都合のつかない場合には電車やバスを利用しています。そのためタクシー利用券を使うことはほとんどなく、年度末には利用券を市役所に返していました。しかし先日、買い物に出かけた際に体調が悪くなってしまったため、タクシー利用券を使わせてもらったという話をしていました。料金が八百十円だったため、五百円券一枚と現金で三百十円を支払ったそうです。私は、

「いつもタクシー利用券を使わずに返しているのなら、お釣りがでなくても五百円券を二枚使えばよかったのに」

と伝えました。すると、

「税金が使われているから無駄にできないんだよね。このサービスがなくなったら困ってしまう人もいるし、予算が足りなくなったらまた何かの税金を上げるという話になるから結局自分に負担が返ってくるんだよ。」

と言われました。私は自分の三百十円の損失よりも税金を大切にしようとするその考えと、そのサービスに感謝している祖母から重要なことに気づかされました。そして同時に、自分勝手な考え方が恥ずかしいとも思いました。使えるサービスに甘えるのではなく、税金の利用を少しでも減らしていけるように努力する祖母の考え方が暮らしやすい社会を創っていくと感じました。私は当たり前のように教科書を支給され、中学校に通っています。学校で電気や水を使っても追加でお金を払うことはありません。そして学校に行くまでの道路や信号機なども税金で整備されています。今まで粗末に扱ったり、無駄に使用したことはありません。しかし、このような環境について考えることもなく、あたりまえのように過ごしてきました。この環境は税金のやりくりにより存続されてきたものであり、永遠に続く保証はありません。誰かが換金を無駄にしたり、納税しなかったりすれば、いつかなくなってしまうかもしれません。税金を上げてほしくないというのは誰もが思うことかもしれませんが、まず様々な場所に税金が使われていることを一人一人が意識して生活することによって、税金の節約がはじまっていると思います。

私は今回、祖母の言葉をきっかけに、社会から受けているサービスの多さとその価値を知ることができました。すべての人がそのサービスを適切に活用することが良い社会を創ることに直結していくと思うので、自分にできることを考えながら生活していきたいです。